



ファンドのフォートレス・インベストメント・グループが新たなTOBによる買い付けを10月1日まで行っている不動産・ホテル業のユニゾホールディングスで活発な動き見られた。

エリオット・インターナショナル・エルピー、いちごアセットマネジメント・インターナショナル・ピーティーイー・リミテッド、野村證券の3社が新規に株式を保有。

このうち、エリオット・インターナショナル・エルピーは4度買い増し、保有割合を9.9%に高めたほか、いちごアセットマネジメント・インターナショナル・ピーティーイー・リミテッドも一度買い増し、保有割合を6.64%とした。野村證券の保有割合は5.08%だった。

HISは7月11日にユニゾ株の45%を保有することを目的にTOBを開始したが、TOB開始直後から株価が上昇し、株価が買付価格を上回る高値で推移したため、応募がゼロという結果に終わった。ユニゾはHISのTOBに反対を表明し、敵対的TOBに発展していた。

8月16日には米フォートレスがHISに対抗する形でユニゾが賛同する友好的なTOBを発表したが、こちらも株価が買付価格を上回っており、TOB成立（買付予定数の下限は66.7%）は難しい状況にある。

こうした事態を受けてHISは8月28日に、米投資会社フォートレスによるTOBが不成立となった場合は、新たな買付価格を設定してTOBを実施、もしくは買い増しを検討する可能性があると発表している。

### レオパレス21 プレーヤーがさらに2社増える

施工不良問題に揺れるレオパレス21については新たなプレーヤーが2社増えた。アルデシアインベントメントと、モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー・インターナショナル・ピーエルシーが新規に保有。モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー・インターナショナル・ピーエルシーは一度買い増し、保有割合を7.81%とした。アルデシアインベントメントの保有割合は5.27%だった。

一方、野村證券とプリンシバル・グローバル・インベスターは保有割合を引き下げ、5%を切った。旧村上ファンド系のレノは3カ月連続で動きがなかった。

個人で目を引いたのはZOZOの前澤友作社長。ZOZO株の担保契約で3度変更届を提出した。ZOZO株の保有割合は41.16%で変化はなかった。

文：M&A Online編集部